

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	西洋経済史（Economic History of Europe and America）		
ナンバリングコード	E10406	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 基礎レベル 経済学
単位数	4	配当学年 / 開講期	1 年 / 後期
必修・選択区分	選択:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E028051	クラス名	-
担当教員名	古川 順一		
履修上の注意、 履修条件	高校の社会科の授業から、大学の専門の講義への橋渡しをする教養を身につけてもらいますので、できる限り受講してください。また、社会人として必要な、教養も身につけられます。 ノートを作成提出すること。3分の2以上出席すること。また、課題や中間・期末レポートを提出すること。以上の点を守ってください。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	『エレメンタル 西洋経済史』(英創社) 楠井・馬場・山本共著 『欧米経済史＜三艇版＞』(放送大学) 関口・梅津著 『イギリス哲学・思想史事典』(研究社) 日本イギリス哲学会編（電子版あり）		
関連科目	経済学史		

○基本情報		
授業の目的	さまざまな人々の経済活動の仕方から、私たちが生きていく土台となるもののヒントを学びます。西洋諸国の歴史を比較しながら、考えます。西欧の近代史の理解も深めます。また、経済史を通して、経済学の専門的な勉強につなげます。どの地域でどのような仕事をする際にも必要な、普遍的視点を身につけてもらうことを目標としています。	
授業の概要	まず最初に、一見うまく行っているように見えたが、実は大きな間違いを犯していた国々を取り上げます。イタリア、ポルトガル、スペインです。次に、その間違いに少しは気づいたものの、やはり一見うまく行くように見える方法に目を奪われて、大切なものを最後には見失ってしまった国を取り上げます。オランダです。最後に、最初はこれらの国々と同じように、大きな間違いを犯していたが、その間違いに気づかされ、真の幸いを見いだした国、イギリスとアメリカを取り上げます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①人間として一番大切なものを学び続ける姿勢を身に着ける。②①を通じて、社会人としての真の責任感や、倫理観を身に着ける。		60点	10点
【知識・理解】	①人間として一番大切なものを大切にする経済活動について理解し、経済学の基礎知識、専門知識を習得する。		5点	
【技能・表現・コミュニケーション】	①人間として一番大切なもののために生きることができるようになり、正しいプレゼンテーション能力を身に着ける。		5点	
【思考・判断・創造】	①人間として一番大切なものについて深く考え、社会事象について正しい視点から考察できる。②①を通じて、現代社会の問題を発見し、解決することができる。		20点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
小テスト、ノート、中間レポート・アンケートは、採点結果を伝える。 [Sレベル]単位を修得するために到達すべき目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために到達すべき目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために到達すべき目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために到達すべき目標を一部分満たしている。				

○その他
・中間レポート等は採点結果を伝えます。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	西洋経済史（Economic History of Europe and America） 古川 順一	授業コード	E028051
学修内容					
1. ○第1回 イン트로ダクション 講義の全体の授業計画、受講心得、評価基準等について説明します。					
予習		参考書を調べる（経済史について）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
2. ○第2回 経済史とは 西洋の経済の歴史から、いったいどんなことが学べるか、考えます。また、この歴史から、現代に生きる私たちは、どんな生きるヒントが学べるか、についても考えます。					
予習		参考書を調べる（経済史について）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
3. ○第3回 大航海時代（1） ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、中世のイタリア商人の活躍と、オスマン・トルコの進出による衰退の様子を、見ていきます。					
予習		参考書を調べる（大航海時代について）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
4. ○第4回 大航海時代（2） ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、イタリア商人に代わって、ポルトガルが、喜望峰経由で、東方貿易に乗り出す様子を、見ていきます。					
予習		参考書を調べる（ポルトガルについて）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
5. ○第5回 大航海時代（3） ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、スペインが、「新大陸」貿易を開始し、ヨーロッパに「価格革命」が起こる様子を見ていきます。					
予習		参考書を調べる（スペインについて）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
6. ○第6回 大航海時代（4） ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、スペイン帝国の衰退の原因について、考えます。また、ポルトガルとスペインの経済発展・衰退の共通点について考えます。					
予習		参考書を調べる（スペインについて）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
7. ○第7回 貿易国家の盛衰（1） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダとイギリスが登場してくる様子について考察します。					
予習		参考書を調べる（オランダについて）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
8. ○第8回 貿易国家の盛衰（2） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダの中継貿易の興隆の原因について探ります。					
予習		参考書を調べる（オランダについて）。			（約2.0h）
復習		講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）

○授業計画	科目名 担当教員	西洋経済史（Economic History of Europe and America） 古川 順一	授業コード	E028051
学修内容				
9. ○第9回 貿易国家の盛衰（3） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダの衰退の原因について、とくに国民経済のあり方、経済の担い手から、探ります。				
予習	参考書を調べる（オランダについて）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポートに備える。			（約2.0h）
10. ○第10回 貿易国家の盛衰（4） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダに代わって、イギリスが、世界市場を制覇した理由を、国民経済のあり方から、探ります。				
予習	参考書を調べる（オランダとイギリスについて）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポート・アンケートに備える。			（約2.0h）
11. ○第11回 貿易国家の盛衰（5） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、スペインとオランダとイギリスの経済構造の共通点と相違点を、思想的背景から考えます。				
予習	参考書を調べる（オランダとイギリスについて）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、中間レポート・アンケートを提出する。			（約2.0h）
12. ○第12回 中世の農村と都市（1） イングランドの先進地域であった東南部と西ヨーロッパに共通の経済構造を探ります。 今回は、ヨーロッパ、とくにイギリスの農村の構造を考え、そこからイギリスが経済発展した原因を、探ります。				
予習	参考書を調べる（中世のヨーロッパについて）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			（約2.0h）
13. ○第13回 中世の農村と都市（2） イングランドの先進地域であった東南部と西ヨーロッパに共通の経済構造を探ります。 今回は、ヨーロッパ中世の都市と荘園制度の発展と衰退について考えます。				
予習	参考書を調べる（中世のヨーロッパについて）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			（約2.0h）
14. ○第14回 イギリス近代の農業革命と農村工業（1） イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリスの農村部で、市場経済が発展していく様子を考えます。				
予習	参考書を調べる（イギリスの農村工業について）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			（約2.0h）
15. ○第15回 イギリス近代の農業革命と農村工業（2） イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリスの農村の中から、農村工業、とくに毛織物工業が発展していく様子を、見ていきます。局地的市場圏から、地域的市場圏、さらにバランスの取れた国民経済が発展していく様子を見ていきます。				
予習	参考書を調べる（イギリスの農村工業について）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			（約2.0h）
16. ○第16回 イギリス近代の農業革命と農村工業（3） イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリス農村経営の革新の様子と、その基盤の上に、農村部で新産業が発展する様子を、見ます。				
予習	参考書を調べる（イギリスの農村工業と農業の革新について）。			（約2.0h）
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			（約2.0h）

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	西洋経済史 (Economic History of Europe and America) 古川 順一	授業コード	E028051
学修内容				
17. ○第17回 絶対王制と市民革命(1) イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリスの絶対王制が、どのような経済政策を採ったか考えます。また、その厳しい抑圧の中で、イギリスの国内市場がいかに成長していったかを見ます。				
予習	参考書を調べる(イギリス絶対王制について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
18. ○第18回 絶対王制と市民革命(2) イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、絶対王制の財政危機について考えます。				
予習	参考書を調べる(イギリス絶対王制について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
19. ○第19回 絶対王制と市民革命(3) イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリスの市民革命が起こった原因とその意義を、とくに経済史的観点から、考えます。またその思想背景についても考えます。				
予習	参考書を調べる(イギリス市民革命について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
20. ○第20回 絶対王制と市民革命(4) イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリス革命の対立図式について考えます。また、イギリス革命とフランス革命とを、比較します。				
予習	参考書を調べる(イギリス市民革命について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
21. ○第21回 近代資本主義と宗教(1) イギリスで新しく発展していった農村工業、市場の原動力となった宗教改革の意義について考えます。 西欧諸国、とくにイギリスやアメリカが、経済発展した理由を、宗教との関係から考察します。 今回は、とくにルターの宗教改革について考察します。				
予習	参考書を調べる(ルターの宗教改革について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
22. ○第22回 近代資本主義と宗教(2) イギリスで新しく発展していった農村工業、市場の原動力となった宗教改革の意義について考えます。 資本主義の成立に果たした、宗教改革の意義について考えます。ここから、私たちが生きるヒントも、考えたいと思います。 今回は、とくにカルヴァンの宗教改革について考察します。				
予習	参考書を調べる(カルヴァンの宗教改革について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
23. ○第23回 イギリス重商主義(1) イギリス市民革命の成果の上に、名誉革命後のイギリスがどのような経済政策を展開したかを考察します。 今回は、名誉革命後のイギリス議会在が、どのような経済政策を採り、国内産業を育成していったかを考えます。				
予習	参考書を調べる(イギリスの重商主義について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
24. ○第24回 イギリス重商主義(2) イギリス市民革命の成果の上に、名誉革命後のイギリスがどのような経済政策を展開したかを考察します。 今回は、イギリス議会の、貿易や植民地政策について考えます。				
予習	参考書を調べる(イギリスの重商主義について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)

○授業計画	科目名 担当教員	西洋経済史 (Economic History of Europe and America) 古川 順一	授業コード	E028051
学修内容				
25. ○第25回 新大陸の経済(1) 市民革命の成果が北部アメリカのニューイングランドでどのように受け継がれていったかを考察します。 今回は、南北アメリカを比較しながら、アメリカ合衆国が、経済発展していった理由を考えます。				
予習	参考書を調べる(ラテンアメリカ諸国について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
26. ○第26回 新大陸の経済(2) 市民革命の成果が北部アメリカのニューイングランドでどのように受け継がれていったかを考察します。 今回は、アメリカ合衆国に入植したピューリタンの生活の様子について考えます。また、合衆国独立の経済的背景についても、考察します。				
予習	参考書を調べる(アメリカ合衆国の建国について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
27. ○第27回 産業革命(1) イギリス産業革命の起因とその世界的意義を広く考察していきます。 今回は、世界で初めて、イギリスで産業革命が起こった理由と、その意義について考えます。				
予習	参考書を調べる(イギリス産業革命について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
28. ○第28回 産業革命(2) イギリス産業革命の起因とその世界的意義を広く考察していきます。 今回は、イギリス産業革命の展開の様子について、考えます。また、産業革命が、世界に波及していく様子についても展望します。その2度にわたる世界大戦との関連なども考察します。				
予習	参考書を調べる(産業革命の世界への波及について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポートに備える。			(約2.0h)
29. ○第29回 産業革命と現代 産業革命と現代の大きな問題である資源・環境問題との関係について考えます。産業革命が弱い国ばかりでなく、自然をも搾取の対象としていったことを考えます。				
予習	参考書を調べる(産業革命と環境問題について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、小テスト、期末レポート・アンケートに備える。			(約2.0h)
30. ○第30回 エピローグ 今までの講義から学べたこと、とくに生きるための一番土台となるものについて振り返ります。				
予習	参考書を調べる(現代の経済的諸問題について)。			(約2.0h)
復習	講義の内容をノートにまとめ、期末レポート・アンケートを提出する。			(約2.0h)
31.				
予習				
復習				
32.				
予習				
復習				